

資料紹介 戦前の静岡県史資料等（その4）

歴史文化情報センター

はじめに

2014年に静岡県立中央図書館で偶然発見された戦前の静岡県史編纂資料については、『葵』49号、50号、51号に一部資料を紹介し、特に50号、51号では、静岡県内の小字名調査及び小字名表について詳述した。その後、中央図書館で資料整理を進めたところ、小字名表に関わる新たな資料が発見されたため、今回はその資料を中心に記述する。

(1) 新発見の小字名表について

ア 新発見の小字名表の形態（書式、枠取等）

新たに発見された資料は、静岡市、浜松市、清水市の3市の小字名表である。小字名が書かれた用紙は、現在のB4サイズとほぼ同じ大きさで、それを横位に用いて二つ折りにし、紙縫りで一つに綴じている。小字名を記載した用紙には太くて黒い外枠線が印刷され、外枠線内の上段には細線で8つの大きい枠目とその下に細長い枠目が計40枠設けられている。つまり、大型枠目一枠につき細長枠目が5枠配されていることになる。用紙の中央には余白が設けられ、下側に黒字で「静岡県」と印刷されている。用紙の中央上段の大型枠の一部に「大字名」の黒字印刷が有り、その下の細長枠目1行に「小字名」と黒字で印刷されている。外枠線の外側の余白には右上隅と左上隅に（ ）があるほか、余白の上部中央寄りに「郡名」、「町村名」と記された（ ）がそれぞれ2個ずつ計4個設けられている。用紙に向かって右側の余白には「記入注意{上欄大字名、下欄小字名記入ノコト（行替）大字、小字ノ特殊讀方ニハふりがなヲ附スコト}」という但し書きが二行に渡って黒字で記載されている。

イ 静岡市の小字名表（新発見）

上記の用紙14枚にわたって270余の大字名と約600程の小字名（大字名及び小字名の数は不正確）がペンで手書きされている。大字名には「ふりがな」がなく、小字名に「ふりがな」が付けられているものは極めて少ない。字名の記載方法は、上段にある大型枠を手書き線で細分して大字名を記載し、大型枠目の下にある

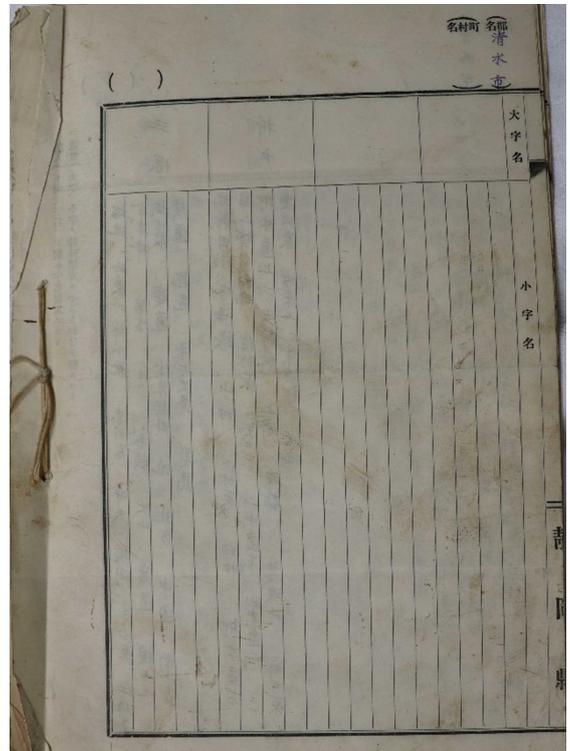


写真1 新発見の小字名表（書式）

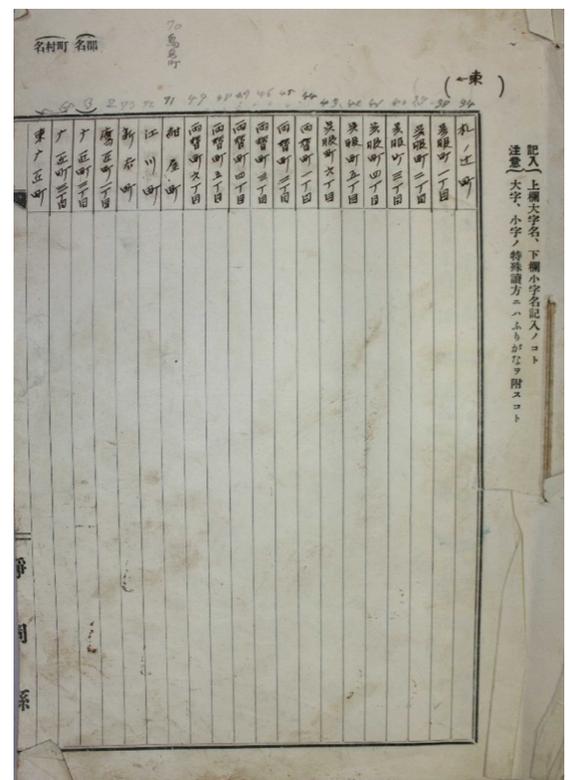


写真2 静岡市の小字名表（新発見）

細長柵目に大字名に属する小字名を記載している。ただし、大型柵目に「札ノ辻町」、「呉服町一丁目」など旧駿府城下町名が記載されている箇所では、細長柵目に小字名は記載されていない。

1枚目の右上隅の（ ）内には、「←東」とペン書きされ、4枚目の左上隅の（ ）に接した箇所「→東」のペン書きがある。大字名の記載順から見て、1枚目から4枚目までの字名は、駿府城の南側隣接地から東側へ順に大字を記載しているようである。5枚目の右上隅の（ ）内には、「←南」とペン書きされ、8枚目の左上隅の（ ）に接した箇所「→南」のペン書きがある。5枚目から8枚目までの字名は、一枚目で書き初めた城下町名の南隣接地から南側へ順に大字を記載しているようである。9枚目の右上隅の（ ）内にも「北」とペン書きされ、14枚目の右上隅の（ ）に接した箇所にも「→北」のペン書きがある。9枚目から14枚目までの字名は、駿府城追手門の南隣接地にあたる追手町から北側へ順に大字を記載しているようである。

1枚目から4枚目、5枚目から8枚目及び9枚目から14枚目の書き方はいずれも共通しており、上段の大型柵目は町名から始まり、町名の付かない土地には大字名とそれに属する小字名を記載している。小字名の頭文字に鉛筆でレ点が付けられている他、大字名欄（上段の大型柵目）の直上に鉛筆で数字を付ける点も共通している。この大字名欄の鉛筆書き数字は、用紙に向かって右側から左側へ順を追って桁数が大きくなっているが、所々で数字が不連続の箇所や欠落している箇所がある。大字の総数と最も大きな桁数（13枚目に記されている数字271）がほぼ同じであることから見て、数字は大字の数を記した可能性がある。数字が所々で不連続になったり欠落している箇所があるのは、各大字に数字が付けられた字名原本が静岡市にあり、その原本を基に当該小字名表を作成したからとも考えられる。用紙の上部、中央部及び下部にそれぞれ一条（計3条）の横方向の浅い折り目が認められる。

ウ 市の小字名表(新発見)

9枚の用紙に66の大字名と約810余りの小字名がペン書きされている。大字名を用紙の上段に設けられている大型柵目一柵ごとに記載し、当該大字に属する小字名を大型柵目の下に設けられた細長柵目に記載している。静岡市の小字名表とは異なり、上段の大型柵目に記載された町名にもそれに属する小字名が記載されている。

上段の大型柵目内の左下側に赤字でペン書き数字が記載されている。小字名の多くに鉛筆でレ点が付けられていることから、当該数字は大字に属する小字の数を記したと思われるが、所々で記載された数字と小字数が異なる。ごく一部の大字名と小字名にカタカナで「ふりがな」が付けられているが、大半の字名に「ふりがな」がない。

用紙の上段余白部にある「町村名」の（ ）内に「浜松市」とペン書きされ、上段余白の右上隅と左上隅の（ ）内には アラビア数字で1、2、3の数字が記載されているが、3枚目から9枚目までの（ ）には何の数字も記載されていない。静岡市の小字名表と同様、用紙の上部、中

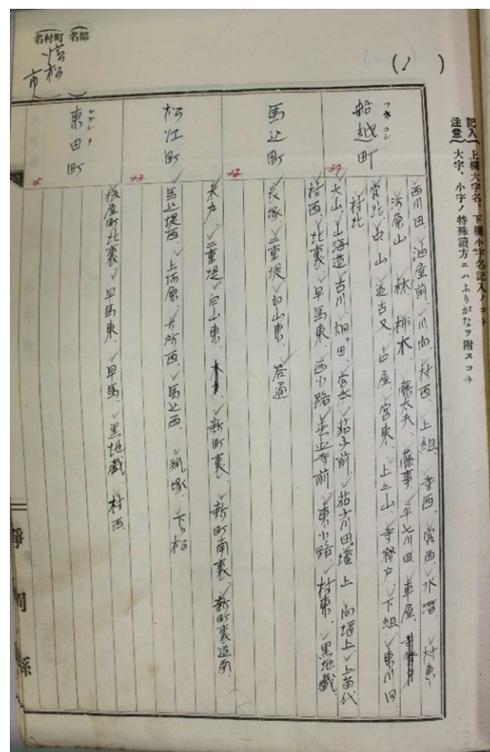


写真3 浜松市の小字名表(新発見)

中央及び下部にそれぞれ一条の横方向の浅い折り目が認められる。

エ 清水市の小字名表(新発見)

4枚の用紙に22の大字名と約550余りの小字名がペン書きされている。大字名を用紙の上段に設けられている大型枠目一桁ごとに記載し、当該大字に属する小字名を大型枠目の下に設けられた細長枠目に記載している。ごく一部の小字名にカタカナで「ふりがな」が付けられているが、大字名及び大半の小字名には「ふりがな」がない。静岡市や浜松市では、小字名に鉛筆でレ点が付けられていたが、清水市の小字名にはレ点は付けられていない。

用紙の上段余白部にある「郡名」の()内に「清水市」の押印があり、上段余白の右上隅と左上隅の()内にはアラビア数字で1~7の数字が記載されている。静岡市及び浜松市の小字名表と同様、用紙の上部、中央部及び下部にそれぞれ一条の横方向の浅い折り目が認められる。

オ 小字名表のカバー(新発見)

上記で述べた静岡市、浜松市、清水市の小字名表は冒頭で記載したとおり、紙縫りで一冊に綴じられていたが、当該資料のカバーと思われるものも発見されている。

カバーはB4サイズの厚紙を横位に用いて二つ折りにし、表側の上部に筆で「市」と記載されている。左上側に「類」、「號」の文字がある横2.2cm、縦1.6cmの角印が押され、「類」の欄に「05」、「號」の欄に「14-17」とペン書きされている。

(2) 2014年発見の小字名表と新発見の小字名表との比較

2014年に発見された小字名表については、『葵』51号で詳述したとおりである。以下では今回発見された小字名表(以下「新発見の小字名表」という。)と先に発見された小字名表(以下「先発見の小字名表」という。)を比較し、その相違点、類似点について述べる。

ア 形態(書式、枠取等)の相違点

先発見の小字名表中には、静岡市、浜松市、清水市の小字名表は見当たらないが、静岡県立中央図書館に先発見の小字名表と同類の静岡市、清水市の小字名表が所蔵されている(『葵』51号参照)。これらの資料と新発見の小字名表の形態を比較してみると、新発見の小字名表が黒色枠を用いるのに対して、先発見の小字名表は赤色枠を用いている。また、新発見の小字名表には「ふりがな」を付ける枠が無いのに対し、先発見の小字名表には「ふりがな」を付ける枠が設けられている。さらに、枠外側の余白部分においても違いが認められる。例えば新発見の小字名表の上部

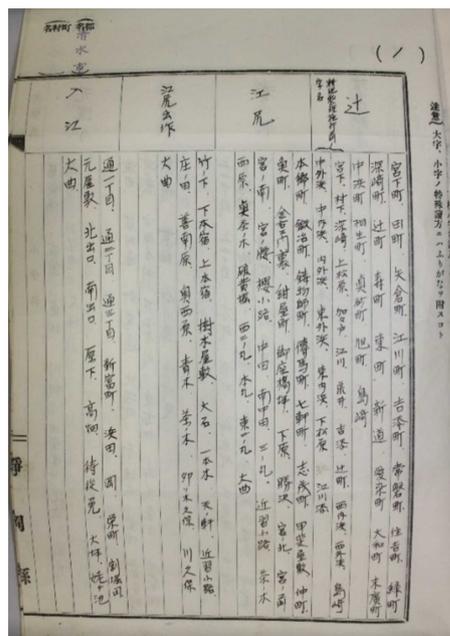


写真4 清水市の小字名表(新発見)

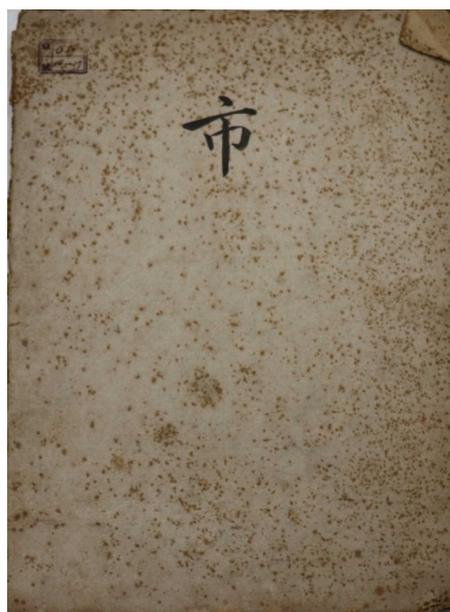


写真5 小字名表のカバー(新発見)



写真6 小字名表のカバーの文字

